

都市再生、 成否のカギはトップ のリーダーシップ

関西経済の足下がしっかりしてきたことから、私が委員長を務める都市再生委員会でも新しい視点による未来志向の都市再生を提言しようとの機運が高まってきました。そこでそのヒントを探るため、関経連イギリス・ドバイ都市再生調査団を2月末から3月初旬に派遣、副団長として参加しました。「島国」「歴史・伝統ある都市」という関西の都市と共通の背景を持ち、ミレニアム以降その魅力をさらに増しているロンドンを中心とする英国の都市再生、驚くべきスピードで開発やまちづくりが進むドバイ、それぞれの熱気を肌で感じて調査したいというのが2国を選んだ理由でした。

ロンドンで印象的だったのは、リビングストン市長が「マイ・ビジョン」と呼ぶ明確なビジョンをもとに強いリーダーシップを発揮して策定された「ロンドンプラン」に従い戦略的に進められる都市再生と、都市としてCO₂を削減する施策に積極的に取り組む姿勢です。

ロンドンプランの大きな方針のひとつは公共交通インフラを整備し、その周辺地域の再開発を重点的に行う手法です。ユーロスターの発着駅をロンドンの北部キングス・クロス付近のセント・パンクラス駅に変更し、駅周辺の再開発を行っているのはその一例です。

公共交通機関の整備に加え、ロンドン市内へ乗り入れる車両に渋滞税を課し、CO₂を削減する施策など、環境問題に配慮した政策にも熱心です。2012年のオリンピック関連の整備事業を市内東部再開発の起爆剤とするなど、うまい手法をとられていると感心しました。

再開発に携わるメンバーも実に興味深く、さまざまなバックグラウンドを持つ人々が市職員として再開発地区に常駐し、住民の声を聞いています。地域住民の課題解決もシティプロモーションの一環と考え、住民の就職相談にも乗るなど、日本ではあまり例のない取り組みもあり、非常に参考になりました。



竹中 統一 氏

Toichi Takenaka
竹中工務店社長

他方、ドバイでは世界最高層となるブルジュ・ドバイ、パーム・ジュメイラをはじめとする人工島、1985年に設置され、経済発展の原動力となったジュベル・アリ・フリーゾーンなど、石油だけに頼らないドバイの発展をめざし、長期的観点をもって、これらのプロジェクトを進めてきたのが現在の首長シーク・ムハンマド氏です。世界の注目は派手なプロジェクトに集まりがちですが、空港・鉄道など地道なインフラ整備もしっかりした計画に基づき着実に進められており、首長の先見の明を感じます。ドバイ国際空港は第3ターミナルの完成が間近でさらに増築計画があり、平行滑走路6本が建設予定のジュベル・アリ国際空港も5年後の完成をめざしています。総延長75kmのメトロ(鉄道)は想像を絶する交通渋滞の解消策として開通が急がれており、その建設にも複数の日本企業が携わっています。多国籍のワーカーの労務管理、イスラム圏の戒律や法律に悪戦苦闘しながらも日本企業がプロジェクトを進める姿は、同じ日本人として頼もしく感じました。

ロンドンとドバイに共通するもの—それは、リビングストン市長とムハンマド首長、2人のリーダーの強力なリーダーシップと明確なビジョンです。都市の開発やまちづくりの成否は先見の明のあるリーダーがビジョンを関係者に浸透させ、リーダーシップをとって迅速に具体策を進め、先手を打つことができるかにかかっています。関西の自治体のリーダーシップとスピード感、また官主導の下での官民連携にぜひ期待したいですね。 談